

シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i> (Hayata) Hayata	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I A類)		イワデンド科
選定理由	全国的に見ても産地が少なく、岐阜県でもごく狭い地域に生育しているだけである。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	夏緑性のシダ植物。葉は被針形で下部1-2対の羽片は下向きにつく。中部羽片の最下1対の小羽片は著しく内先に出る。孢子嚢群は裂片の中肋近くに着く。	
生態的特徴	標高のやや高い山地の沢筋の林下に生育する。	
分布状況	県南西部の限られた地域に見られ分布の東限になると思われる。	
減少要因	一部の生育地では林下の光条件の悪化が懸念される。	
保全対策	登山道等の整備の際には配慮が必要である。シカ等の食害対策について検討を要する。	
特記事項	ヤマイヌワラビとの雑種のタナカイヌワラビも見られる。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 234. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑. 6. P.600-603. 東京大学出版会. 東京.	

文責: 荻山恒弘